

## 日本国憲法

### 前文

日本国民は、( )に( )された( )における( )を通じて( )し、われらとわれらの子孫のために、( )との( )による( )と、わが国全土にわたって( )のもたらす( )を( )し、( )の( )によって再び( )の( )が起ることのないやうにすることを( )し、ここに( )が( )に存することを( )し、この( )を( )する。そもそも( )は、( )の( )な( )によるものであって、その( )は( )に( )し、その( )は( )の( )がこれを( )し、その( )は( )がこれを( )する。これは( )の( )であり、この( )は、かかる( )に基くものである。われらは、これに( )する( )の( )、( )及び( )を( )する。

日本国民は、( )の( )を( )し、( )の( )を( )する( )な( )を深く( )するのであって、( )を愛する( )の( )と( )に( )して、われらの( )と( )を( )しようとして( )した。われらは、( )を( )し、( )と( )、( )と( )を( )から( )に( )しようとして努めている( )において、名誉ある( )を占めたいと思ふ。われらは、( )の( )がひとしく( )と( )から( )かれ、( )のうちに( )する( )を有することを( )する。

われらは、いづれの( )も、( )のことのみに( )して( )を( )してはならないのであって( )の( )は、( )なものであり、この( )に従ふことは、( )の( )を( )し、( )と( )に立たうとする( )の( )であると信ずる。

日本国民は、( )の( )にかけ、( )をあげてこの( )な( )と( )を( )することを誓ふ。

## 第1章 天 皇

第1条 天皇の( )・( )

天皇は、日本国の( )であり、( )の( )であって、この地位は、( )の存する( )の( )に基く。

第2条 皇位の( )

皇位は( )のものであって、( )の( )した( )の定めるところにより、これを( )する。

第3条 天皇の( )に対する( )の( )と( )

天皇の( )に関するすべての( )には、( )の( )と( )を必要とし、( )が、その( )を負ふ。

第4条 天皇の( )の( )、天皇の( )の( )

天皇は、この憲法の定める( )に関する( )のみを行ひ、( )に関する( )を有しない。

天皇は、( )の定めるところにより、その( )に関する( )を( )することができる。

第5条 ( )

( )の定めるところにより、( )を置くときは、( )は、( )の名でその( )に関する( )を行ふ。この場合には、前条第一項の規定を( )する。

第6条 天皇の( )

天皇は、( )の( )に基いて、( )を( )する。

天皇は、( )の( )に基いて、( )の( )を( )する。

第7条 天皇の( )

天皇は、( )の( )と( )により、( )のために、左の( )に関する( )を行ふ。

1 ( )、( )及び( )を( )すること。

2 ( )を( )すること。

3 ( )を( )すること。

4 ( )の( )の( )を( )すること。

5 ( )及び( )の定めるその他の( )の( )並びに

( )及び( )及び( )の( )を( )すること。  
6 ( ) ( ) ( ) ( )の( )の( )及び( )  
を( )すること。  
7 ( )を( )すること。  
8 ( )及び( )の定めるその他の( )を( )すること。  
9 ( )の( )及び( )を( )すること。  
10 ( )を行ふこと。

第8条 ( )の( )  
( )に( )を譲り渡し、又は( )が、( )を譲り受け、若しくは  
( )することは、( )の( )に基かなければならない。

## 第2章 ( )の( )

第9条 ( )の( ) ( )及び( )の( )  
日本国民は、( )と( )を( )とする( )を( )に( )  
し、( )の( )たる( )と、( )による( )又は( )  
の( )は、( )を( )する( )としては、( )にこれ  
を( )する。

前項の( )を達するため、( )その他の( )は、これを( )  
しない。( )の( )は、これを( )ない。

## 第3章 ( )の( )及び( )

第10条 ( )の( )  
( )たる( )は、( )でこれを定める。

第11条 ( )の( )  
( )は、すべての( )の( )を( )られない。この( )  
が( )に( )する( )は、( )ことのできない( )  
の( )として、( )及び( )の( )に( )られる。

第12条 ( )・( )の( )の( )とその( )の( )  
この憲法が( )に( )する( )及び( )は、( )の( )  
の( )によって、これを( )しなければならない。又、( )は、これを  
( )してはならないのであって、常に( )の( )のためにこれを( )  
する( )を負ふ。

第13条 ( )の( )と( )の( )  
すべて( )は、( )として( )される。( )及び( )  
に対する( )の( )については、( )の( )に反しない限り、( )  
その他の( )の上で、( )の( )を( )とする。

第14条 ( )の下( )の( )  
すべて国民は、( )の下に( )であって、( )  
( )又は( )により、( )又は( )関係において、( )されない。

( )その他の( )の( )はこれを認めない。  
( )その他の( )の( )は、いかなる( )も伴わない。( )の( )は、現にこれを有し、又は( )これを受ける者の( )に限り、その( )を有する。

第15条 ( )の( )及び( )の( )  
の( )の( )  
( )を( )し、及びこれを( )することは( )の( )である。

すべて( )は、( )の( )であって、( )の( )ではない。

( )の( )については( )による( )を( )する。

すべて( )における( )の( )は、これを( )てはならない。  
( )は、その( )に関し( )にも( )にも( )を問はれない。

第16条 ( )  
何人も、( )の( )の( )又は( )  
の( )又は( )その他の事項に関し、( )に( )する  
( )を有し、何人も、かかる( )をしたためにいかなる( )も受けない。

第17条 ( )及び( )の( )  
何人も、( )の( )により、( )を受けたときは、( )の定めるところにより( )又は( )に、その( )を求めることができる。

第18条 ( )及び( )からの( )  
何人も、いかなる( )も受けない。又、( )に因る( )の場合を

除いては、その意に反する（ ）に服させられない。

第19条 （ ）及び（ ）の（ ）  
（ ）及び（ ）の（ ）は、これを（ ）てはならない。

第20条 （ ）の（ ）  
（ ）の（ ）は、何人に対してもこれを（ ）する。いかなる（ ）  
も、（ ）から（ ）を受け、又は（ ）の（ ）を（ ）してはな  
らない。

何人も、（ ）の（ ）（ ）（ ）又は（ ）に（ ）す  
ることを（ ）されない。

（ ）及びその（ ）は、（ ）その他いかなる（ ）もして  
はならない。

第21条 （ ）・（ ）・（ ）の（ ）（ ）の（ ）  
（ ）（ ）及び（ ）（ ）その他一切の（ ）の（ ）は、  
これを（ ）する。

（ ）は、これをしてはならない。（ ）の（ ）は、これを（ ）して  
はならない。

第22条 （ ）・（ ）及び（ ）の（ ）（ ）及び  
（ ）の（ ）  
何人も、（ ）の（ ）に反しない限り、（ ）（ ）及び（ ）  
の（ ）を有する。

何人も、（ ）に（ ）し、又は（ ）を（ ）する（ ）を（ ）  
されない。

第23条 （ ）の（ ）  
（ ）の（ ）は、これを（ ）する。

第24条 （ ）における（ ）の（ ）と（ ）の（ ）  
（ ）は、（ ）の（ ）のみに基づいて（ ）し、（ ）が（ ）  
の（ ）を有することを基本として、（ ）の（ ）により、（ ）され  
なければならない。

（ ）の（ ）（ ）（ ）（ ）の（ ）（ ）  
並びに（ ）及び（ ）に関するその他の事項に関しては、（ ）は、（ ）  
の（ ）と（ ）の（ ）に立脚して（ ）されなければならない。  
い。

第25条 ( ) ( ) の ( )  
すべて国民は、( ) で ( ) な ( ) の ( ) を ( ) む ( )  
を有する。

( ) は、すべての ( ) について、( ) ( ) 及び  
( ) の ( ) 及び ( ) に ( ) めなければならない。

第26条 ( ) を受ける ( ) ( ) の ( )  
すべて国民は、( ) の定めるところにより、その ( ) に応じて、ひとしく ( )  
を受ける ( ) を有する。

すべて国民は、( ) の定めるところにより、その ( ) する ( ) に  
( ) を受けさせる ( ) を負ふ。( ) は、これを ( ) とす  
る。

第27条 ( ) の ( ) 及び ( ) ( ) の ( ) ( )  
の ( )  
すべて国民は、( ) の ( ) を有し、( ) を負ふ。  
( ) ( ) ( ) その他の ( ) に関する ( ) は ( )  
でこれを定める。

( ) は、これを ( ) してはならない。

第28条 ( ) の ( )  
( ) の ( ) する ( ) 及び ( ) その他の ( ) を  
する ( ) は、これを ( ) する。

第29条 ( )  
( ) は、これを ( ) してはならない。  
( ) の ( ) は、( ) の ( ) に ( ) するやうに、( )  
でこれを定める。

( ) は、( ) な ( ) の下に、これを ( ) のために ( )  
ひることができる。

第30条 ( ) の ( )  
国民は、( ) の定めるところにより、( ) の ( ) を負ふ。

第31条 ( ) の ( ) の ( )  
何人も、( ) の定める ( ) によらなければ、その ( ) 若しくは ( )  
を ( ) はれ、又はその他の ( ) を ( ) せられない。

第32条 ( )を( )ける( )  
何人も、( )において( )を( )ける( )を( )はれない。

第33条 ( )の( )  
何人も、( )として( )される場合を除いては、( )を有する( )  
が( )し、且つ( )となっている( )を( )する( )によ  
らなければ、( )されない。

第34条 ( )・( )の( ) ( )に対する( )  
何人も、( )を( )に( )げられ、且つ、( )に( )に( )  
する( )を( )へられなければ、( )又は( )されない。又、何人  
も、( )な( )がなければ、( )されず、( )があれば、その( )  
は、( )に( )及びその( )の( )する( )の( )  
で( )されなければならない。

第35条 ( )の( )  
何人も、その( ) ( )及び( )について、( ) ( )及び  
( )を( )けることのない( )は、第33条の場合を除いては、( )  
な( )に基いて( )せられ、且つ( )する( )及び( )す  
る( )を( )する( )がなければ、( )されない。  
( )又は( )は、( )を有する( )が( )する( )  
の( )により、これを行ふ。

第36条 ( )及び( )の( )  
( )による( )及び( )な( )は、( )にこれを( )  
ずる。

第37条 ( )の( )  
すべて( )においては、( )は、( )な( )の( )  
な( )を( )ける( )を有する。  
( )は、すべての( )に対して( )する( )を( )  
に( )へられ、又、( )で( )のために( )により( )  
を( )める( )を有する。  
( )は、いかなる場合にも、( )を有する( )を( )す  
ることができる。( )が( )らこれを( )することができないときは、  
( )でこれを( )する。

第38条 ( )に( )な( )の( )  
何人も、( )に( )な( )を( )されない。  
( )若しくは( )による( )又は( )に( )  
く( )若しくは( )された後の( )は、これを( )とすることができない。

何人も、( )に( )な( )の( )が( )の( )  
である場合には、( )とされ、又は( )を( )せられない。

第39条 ( )の( )・( )  
何人も、( )の時に( )であった( )又は( )に( )とされた( )については、( )の( )を( )はれない。又、( )  
の( )について、( )ねて( )の( )を( )はれない。

第40条 ( )  
何人も、( )又は( )された後、( )の( )を( )けたときは、( )の定めるところにより、( )にその( )を( )めることができる。



## 第4章 国会

第41条 ( )の( )・( )  
( )は、( )の( )であって、( )の唯一の( )機関である。

第42条 ( )  
( )は( )及び( )の( )でこれを構成する。

第43条 ( )の( )  
( )は、( )を( )する( )された( )でこれを( )する。  
( )の( )の( )は、( )でこれを定める。

第44条 ( )及び( )の( )  
( )の( )及びその( )の( )は、( )でこれを定める。但し、( )( )( )( )( )( )( )  
又は( )によって( )してはならない。

第45条 ( )の( )  
( )の( )は、《 》年とする。但し、( )の場合には、その( )に( )する。

第46条 ( )の( )  
( )の( )は、《 》年とし、《 》年ごとに( )の( )を( )する。

第47条 ( )に関する事項  
( )( )の( )その他( )の( )の( )に関する事項は、( )でこれを定める。

第48条 ( )の( )  
何人も、( )に( )の( )たることはできない。

第49条 ( )の( )  
( )の( )は、( )の定めるところにより、( )から( )の( )を( )ける。

第50条 ( )の( )  
( )の( )は、( )の定める場合を除いては、( )の( )  
( )されず( )に( )された( )は、その( )の( )  
があれば、( )にこれを( )しなければならない。

第51条 ( )の( )・( )の( )  
( )の( )は、( )で行った( ) ( )又は( )に  
ついて、( )で( )を( )はれない。

第52条 ( )  
( )の( )は、毎年《 》回これを( )する。

第53条 ( )  
( )は、( )の( )の( )を( )することができる。い  
づれかの( )の( )の《 》以上の( )があれば、( )  
はその( )を( )しなければならない。

第54条 ( )の( )・( ) ( )の( )  
( )が( )されたときは、( )の日から《 》日以内に、  
( )の( )を行ひ、その( )の日から《 》日以内に、  
( )を( )しなければならない。  
( )が( )されたときは、( )は、( )に( )とな  
る。但し、( )は、( )に( )の( )があるときは、( )の  
( )を求めることができる。

前項但書の( )において採られた( )は、( )のものであって、  
次の( )の後《 》日以内に、( )の( )がない場合には、そ  
の( )を失ふ。

第55条 ( )の( )  
( )は、各々その( )の( )に関する( )を( )する。  
但し、( )の( )を失はせるには、( )の《 》以上の( )  
による( )を( )とする。

第56条 ( ) ( )  
( )は各々その( )の《 》以上の( )がなければ、( )  
を( )き( )することができない。  
( )の( )は、この憲法に特別の定めのある場合を除いては、( )  
の( )でこれを決し、( )のときは、( )の決するところによる。

第57条 会議の( ) ( ) ( ) の( )  
両議院の会議は( )とする。但し、( )議員の《 》以上の多数で( )  
したときは、( )を開くことができる。

両議院は、各々その( )の( )を保存し、( )の( )の中で  
特に( )を要すると認められるもの以外は、これを( )し、且つ一般に( )  
しなければならない。

( )議員の《 》以上の( )があれば、各議員の( )は、  
これを( )に記載しなければならない。

第58条 ( )の選任、( )・( )  
両議院は、各々その( )その他の( )を選任する。

両議院は、各々その( )その他の( )及び内部の( )に関する( )  
を定め、又、院内の( )をみだした( )を( )することができる。但  
し、( )を( )するには、( )議員の《 》以上の多数による  
( )を必要とする。

第59条 法律案の( ) ( ) の( )  
法律案は、この憲法に特別の定めのある場合を除いては、( )で( )したとき法  
律となる。

( )で( )し、( )でこれと異なった議決をした法律案は、( )  
で( )議員の《 》以上の多数で再び( )したときは、法律となる。

前項の規定は、法律の定めるところにより、( )が、( )の( )  
を開くことを求めることを妨げない。

( )が( )の( )した法律案を受け取った後、国会休会中の期  
間を除いて《 》日以内に、( )しないときは、( )は、( )が  
その法律案を( )したものとみなすことができる。

第60条 衆議院の( ) ( ) に関する衆議院の( )  
( )は、さきに( )に( )しなければならない。

( )について、参議院で衆議院と異なった議決をした場合に、法律の定めるところ  
により、( )の( )を開いても( )が一致しないとき、又は参議  
院が、衆議院の可決した( )を受け取った後、国会休会中の期間を除いて《 》  
日以内に、議決しないときは、( )の議決を( )の議決とする。

第61条 ( )の( ) に関する衆議院の( )  
( )の締結に必要な( )の( )については、前条第二項の規定を( )  
する。

第62条 議院の（ ）

両議院は、各々（ ）に関する（ ）を行ひ、これに関して、（ ）の（ ）及び（ ）並びに（ ）の（ ）を要求することができる。

第63条 （ ）の（ ）の権利と義務

（ ）その他の（ ）は、両議院の一に議席を有すると有しないにかかはらず、何時でも（ ）について（ ）するため議院に（ ）することができる。又、（ ）又は（ ）のため（ ）を求められたときは、（ ）しなければならない。

第64条 （ ）

国会は、（ ）の（ ）を受けた（ ）を（ ）するため、（ ）の議員で組織する（ ）を設ける。

（ ）に関する事項は、（ ）でこれを定める。

## 第5章 内閣

### 第65条 行政権

行政権は( )に属する。

第66条 ( )の組織、( )に対する( )  
( )は、法律の定めるところにより、その首長たる( )及びその他  
の( )でこれを組織する。

( )その他の( )は、( )でなければならない。  
( )は、( )の行使について、( )に対し、( )して( )  
を負ふ。

第67条 ( )の指名、( )の優越  
( )は、( )の中から( )の( )でこれを指名する。  
この指名は、他のすべての( )に先だって、これを行ふ。

衆議院と参議院が異なった( )の( )をした場合に、法律の定めるところ  
により、( )の( )を開いても( )が( )しないとき、又は  
衆議院が( )の( )をした後、( )の期間を除いて《 》日以  
内に、( )が( )の( )をしないときは、( )の( )  
を( )の( )とする。

第68条 ( )の任命及び( )  
( )は、( )を任命する。但し、その( )は、( )  
の中から選ばなければならない。

( )は、( )に、( )を( )することができる。

第69条 ( )の効果  
内閣は、( )で( )の( )を可決し、又は( )の( )  
を否決したときは、《 》日以内に( )が解散されない限り、( )を  
しなければならない。

第70条 総理の( )・新国会の( )と内閣の( )  
内閣総理大臣が欠けたとき、又は( )の後に初めて( )の( )  
があったときは、内閣は( )をしなければならない。

第71条 ( )後の内閣  
前二条の場合には、( )は、あらたに( )が任命されるまで引き続き  
その( )を行ふ。

第72条 ( )の職務

( )は、( )を代表して議案を( )に提出し、一般国務及び( )について( )に報告し、並びに行政各部を( )する。

第73条 ( )の職務

( )は、他の一般行政事務の外、左の事務を行ふ。

1 ( )を誠実に執行し、( )を( )すること。

2 ( )を処理すること。

3 ( )を締結すること。但し、事前に、時宜によっては事後に、( )の( )を経ることを必要とする。

4 法律の定める( )に従ひ、( )に関する事務を( )すること。

5 ( )を作成して( )に提出すること。

6 この憲法及び法律の規定を実施するために、( )を制定すること。但し、( )には、特に、その( )の委任がある場合を除いては、( )を設けることができない。

7 ( ) ( ) ( ) 刑の( )の( )及び( )を決定すること。

第74条 ( )・( )の( )

( )及び( )には、すべて主任の( )が( )し、( )が( )することを必要とする。

第75条 ( )の特典

( )は、その在任中、( )の( )がなければ、( )されない。但し、これがため、( )の権利は、害されない。

## 第6章 司法

第76条 司法権・裁判所、( )の( ) 裁判官の( )  
すべて司法権は、( )及び法律の定めるところにより設置する( )  
に属する。

( )は、これを設置することができない。( )は終審として( )  
を行ふことができない。

すべて裁判官は、その( )に従ひ( )してその( )を行ひ、この憲  
法及び法律にのみ拘束される。

第77条 最高裁判所の( )  
最高裁判所は、( )に関する手続、( ) ( )の内部規律及び司法事  
務処理に関する事項について、( )を定める( )を有する。

( )は、最高裁判所の定める( )に従はなければならない。

最高裁判所は、( )に関する規則を定める( )を、( )  
に( )することができる。

第78条 ( )の( )の保障

( )は、( )により、心身の故障のために職務を執ることができないと決定  
された場合を除いては、公の( )によらなければ( )されない。( )の  
( )は、( )がこれを行ふことはできない。

第79条 最高裁判所の裁判官、( ) 定年、報酬

最高裁判所は、その長たる裁判官及び法律の定める員数のその他の裁判官でこれを構成し、  
その長たる裁判官以外の裁判官は、( )でこれを( )する。

最高裁判所の裁判官の( )は、その( )後初めて行はれる  
( )の際( )の( )に付し、その後《 》年を経過  
した後初めて行はれる( )の際更に( )に付し、その後も同様  
とする。

前項の場合において、投票者の多数が裁判官の( )を可とするときは、その裁判  
官は、( )される。

( )に関する事項は、法律でこれを定める。

最高裁判所の裁判官は、法律の定める年齢に達した時に( )する。

最高裁判所の裁判官は、すべて定期的に相当額の報酬を受ける。この報酬は、在任中、こ  
れを( )することができない。

第80条 下級裁判所の裁判官・( )・定年、報酬

下級裁判所の裁判官は、最高裁判所の( )した者の( )によって、( )  
でこれを( )する。その裁判官は、( )を《 》年とし、( )され

ることができる。但し、法律の定める年齢に達した時には（ ）とする。

下級裁判所の裁判官は、すべて定期的に相当額の報酬を受ける。この報酬は、在任中、これを（ ）することができない。

第 8 1 条 （ ）と最高裁判所

最高裁判所は、一切の（ ）（ ）（ ）又は、（ ）が憲法に（ ）するかしないかを決定する（ ）を有する（ ）である。

第 8 2 条 裁判の（ ）

裁判の（ ）及び（ ）は、（ ）でこれを行ふ。

裁判所が、裁判官の（ ）で、公の（ ）又は（ ）の（ ）を害する虞があると決した場合には、（ ）は、（ ）しないでこれを行ふことができる。但し、（ ）犯罪、（ ）に関する犯罪又はこの憲法第 3 章で（ ）する（ ）の（ ）が問題となっている事件の（ ）は、常にこれを（ ）にしなければならない。



## 第7章 財 政

### 第83条 財政処理の基本原則

国の財政を処理する権限は、( )の( )に基いて、これを行使しなければならない。

### 第84条 ( )

あらたに( )を課し、又は現行の( )を変更するには、法律又は法律の定める条件によることを必要とする。

### 第85条 国費の支出及び国の債務負担

国費を支出し、又は、国が債務を負担するには、( )の( )に基くことを必要とする

### 第86条 ( )

( )は、毎会計年度の( )を作成し、( )に提出して、その( )を受け( )を経なければならない。

### 第87条 ( )

予見し難い予算の不足に充てるため、( )の( )に基いて( )を設け、( )の責任でこれを( )することができる。

すべて( )の( )については、( )は、事後に( )の( )を得なければならない。

### 第88条 ( )・( )の( )

すべて( )は、国に属する。すべて( )の( )は、( )に( )して( )の( )を経なければならない。

### 第89条 公の財産の( )又は( )の制限

( )その他の公の財産は、( )の組織若しくは団体の( ) ( )若しくは( )のため、又は公の( )に属しない( ) ( )若しくは( )の事業に対し、これを( )し、又はその( )に供してはならない。

### 第90条 ( )検査、( )

国の収入支出の( )は、すべて毎年( )がこれを検査し、( )は、次の年度に、その検査報告とともに、これを( )に( )しなければならない。  
( )の組織及び( )は( )でこれを定める。

第91条 ( )の( )  
( )は、( )及び( )に対し、定期に、少くとも毎年《 》回、国の  
( )について( )しなければならない。

## 第8章 ( )

第92条 ( )の基本原則  
( )の( )及び( )に関する事項は、( )の本旨に  
基いて、( )でこれを定める。

第93条 地方公共団体の機関、その( )  
地方公共団体には、( )の定めるところにより、その議事機関として( )を設  
置する。

地方公共団体の( )、その議会の( )及び法律の定めるその他の( )は、  
その地方公共団体の( )が、( )これを( )する。

第94条 ( )の( )  
( )は、その財産を( )し、事務を( )し、及び( )  
を執行する( )を有し、( )の範囲内で( )を制定することができる。

第95条 ( )の( )  
一の地方公共団体のみに適用される( )は、法律の定めるところにより、その地  
方公共団体の( )の( )においてその( )の( )を得なけれ  
ば、( )は、これを制定することができない。

## 第9章 改 正

第96条 ( )の( )、その( )  
この憲法の改正は、( )の( )の( )の賛成で、( )  
がこれを( )し、( )に( )してその( )を経なければならない。  
この( )には、( )の( )又は( )の定める( )の際  
行はれる( )において、その( )の( )を必要とする。  
( )について前項の( )を経たときは、( )は、( )の名  
で、この( )と一体を成すものとして、直ちにこれを( )する。

第10章 ( )

第97条 ( )の( )  
この憲法が( )に( )する( )は、( )の( )  
にわたる( )の( )の( )であって、これらの( )は、過  
去幾多の( )に堪へ、( )及び( )の( )に対し、侵すことので  
きない( )の( )として( )されたものである。

第98条 ( ) ( )及び( )の( )  
( )は、国の( )であって、その条規に反する( ) ( ) ( )  
及び( )に関するその他の行為の( )又は( )は、その( )を  
有しない。

日本国が( )した( )及び確立された( )は、これを( )  
に( )することを必要とする。

第99条 ( )の( )  
( )又は( )及び( ) ( ) ( )その他の( )  
は、この( )を( )し、( )する義務を負ふ。